

## 別添9

## 杖道委員会 中長期計画

5年後の目標	全国に杖道の認知度を高める。正しい全剣連杖道の普及を図り、杖道会員数の増加を目指す。
目標に関する現状	杖道は我が国においてまだまだ認知度が低い。全剣連登録者数は二万人台半ばにとどまっており、初段登録者数は平成30年 290人、過去五年の平均でも年あたり335人と低水準となっている。毎年中央講習会でも派遣の無い県が8県ある。また、全日本杖道大会の参加も毎年30都道府県前後に留まっている。
目標達成のための課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杖道の認知度の向上と積極的な会員増加活動</li> <li>2. 杖道部未設置県の解消</li> <li>3. 指導者の意識改革並びに質の向上</li> <li>4. 全日本杖道大会の出場県の増加</li> </ol>
課題解決のための戦略及び実行計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 杖道の認知度と会員数は相対的であるという考えで、各地区杖道部に対して、大会での杖道演武の機会をいただけるような働きかけと、体験教室等の開催を提案していく。 杖道は高齢者、女性が取り組みやすい局面を持っている。間口を広くして取り組みやすくし、生涯武道としてのを支援推進していく為の方策を検討する。</li> <li>2. 杖道部未設置県では、杖道の活動者が存在しても、段位審査は実施されず、他県に登録し審査を受けることとなる。このため個人の費用負担が倍増し、受審出来ずに興味も減衰すると思われる。初段登録者数を増やすためには登録環境を整えることも必要である。本部を通して積極的に部の設置を働きかけていく。</li> <li>3. 「剣道の理念」「剣道修練の心構え」という目的達成のためには、「正しい」全剣連杖道の普及を図っていかなければならない。現在、中央講習会と年二回の地区講習会並びに講師派遣講習によりその徹底に努めている。中央講習会では普及推進の成功県の報告等も行い、その経験を共有している。 講習会では、杖道実技、指導法、審査法、審判法等内容は多岐にわたっているため、今後内容を精査しより効率的なものになるよう検討していく。 特に指導者育成では、指導法のみではなく、ガバナンス、コンプライアンスに加え倫理・道徳を踏まえた講習を行なっていく。</li> <li>4. 全日本杖道大会では、参加者の増加のみならずより高度な大会になるよう質の向上を図っていく。参加者がより興味を持つようにそして観客の増加を図るための方策（団体戦の導入等）を委員会で検討していく。</li> </ol>